

## Ⅱ 乳牛の特徴と取り扱い方

### 1 乳牛の呼び名

乳牛は一生の中で、発育段階や分娩の有無、性別等で様々な呼び名で呼ばれています。その例を図1に示します。

#### (1) 乳牛の呼び名

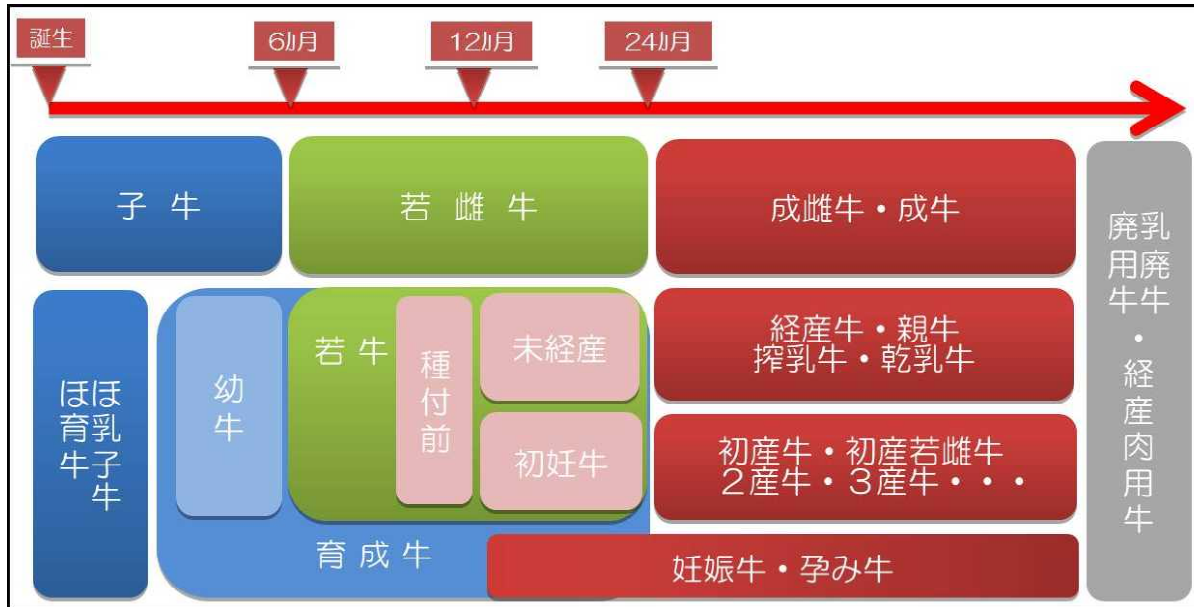


図1 乳牛の呼び名（普及センター調べ）

#### (2) 子牛の呼び名

子牛の呼び名に「犢とく」があります。「犢」は、「育てる」という意味もあり、転じて「小さい」を意味し、いつの頃からか子牛をさす言葉となったといわれています。



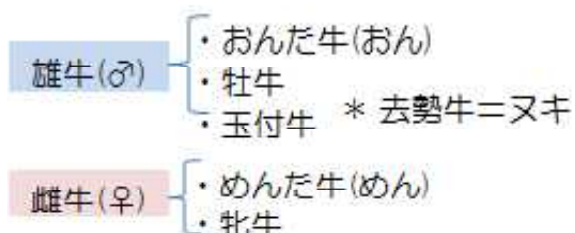
図2 犢の大まかな月齢区分（普及センター調べ）

「犢」の前に「牡」が付くと「牡犢ぼとく」と呼び、「雄子牛」の意味です。



図3 子牛(乳牛)の呼び名

#### (3) 性別の違いよる呼び名



(注) 乳牛の呼び名は、地域や市場等でも違いがあります。また、呼び名に対応する月齢にも幅があります。

## 2 乳牛の一生

乳牛は、子牛を出産（分娩）することで、泌乳（牛乳生産）を開始します。

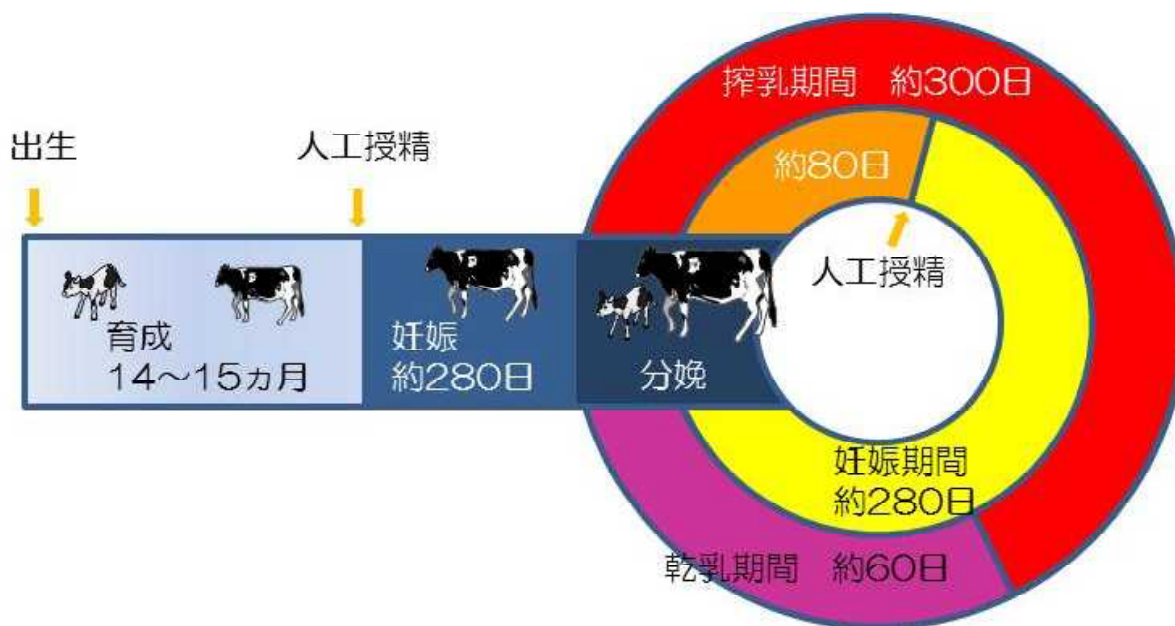


図4 乳牛のライフサイクル

### (1) 出生から種付けまで

ホルスタイン種雌牛の出生時の体重は約40kgです。その後、8~9ヵ月齢以降になると、発情が始まり（春機発動）、それから3ヵ月ほどで卵巣・子宮ともに十分に妊娠可能（性成熟）となります。

種付け（人工授精）の開始は、月齢のみを目安とはせず、出産時に母牛の体格が小さくて難産になるのを回避するために、体重350kg、体高125cm以上を目安とすることが推奨されています。

### (2) 初産分娩月齢と体格

ホルスタイン種の妊娠期間はおおむね280日間とされ、初めて出産する月齢（初産分娩月齢）は23~25ヵ月齢となっています。

この頃の体格は標準的な発育で体重540kg、体高137cm前後となります。発育はその後も続き、60ヵ月齢で、体重680kg、体高144cmほどに発育します。

（参考 社団法人日本ホルスタイン登録協会 ホルスタイン種雌牛・月齢別標準発育値）

### (3) 分娩・泌乳・授精・乾乳

分娩後、泌乳が開始され、徐々に乳量は増え、泌乳最盛期、授精、受胎を経て、乳量は次第に減少していきます。

授精の開始は、子宮の回復などを考慮し、分娩後50日前後から発情兆候を確認しながら行われます。

乾乳の開始は分娩予定日から60日前を一般的な目安にします。

このように乳牛は、分娩、泌乳、受胎を繰り返しながら、一生を送ることになります。

### (4) 更新

乳牛の搾乳開始から淘汰までの期間は3~5年前後（平均）となっています。これは、酪農家が乳牛の淘汰更新を行っているためです。淘汰の大部分は老齢と繁殖障害、乳房炎および代謝病などの疾病によるものです。

### 3 各部の名称と体型測定部位

#### (1) 各部の名称

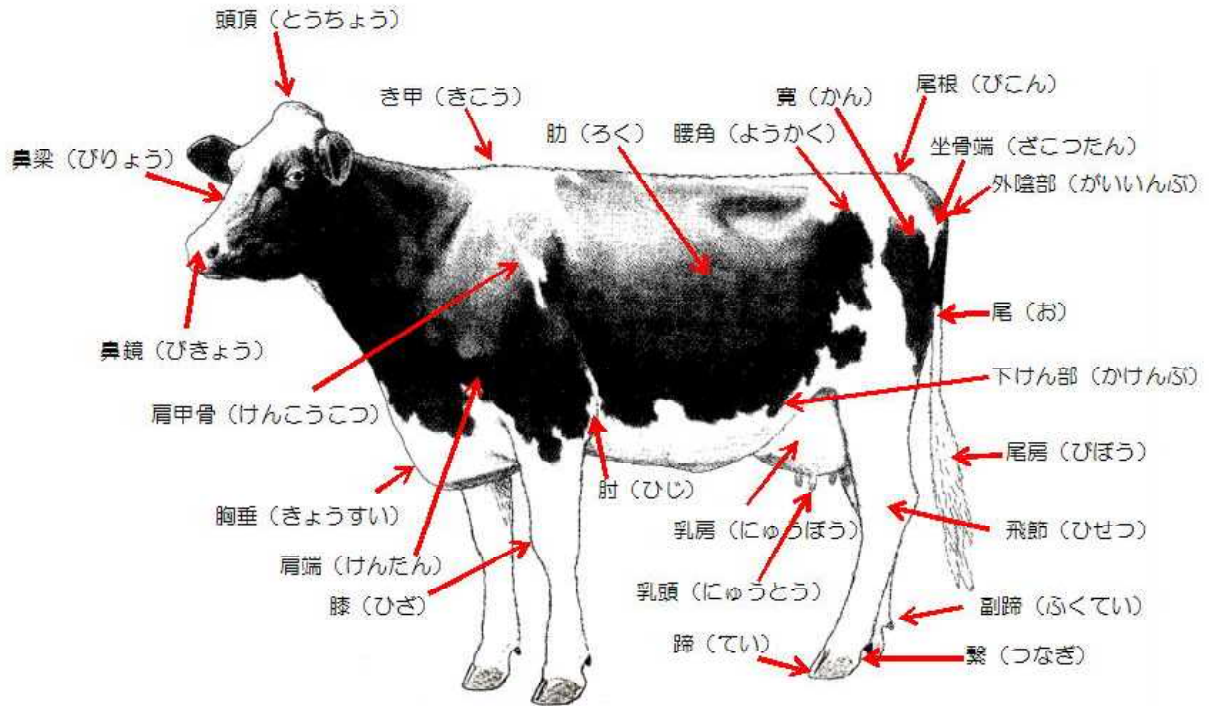


図5 乳牛の各部の名称

#### (2) 体型測定部位

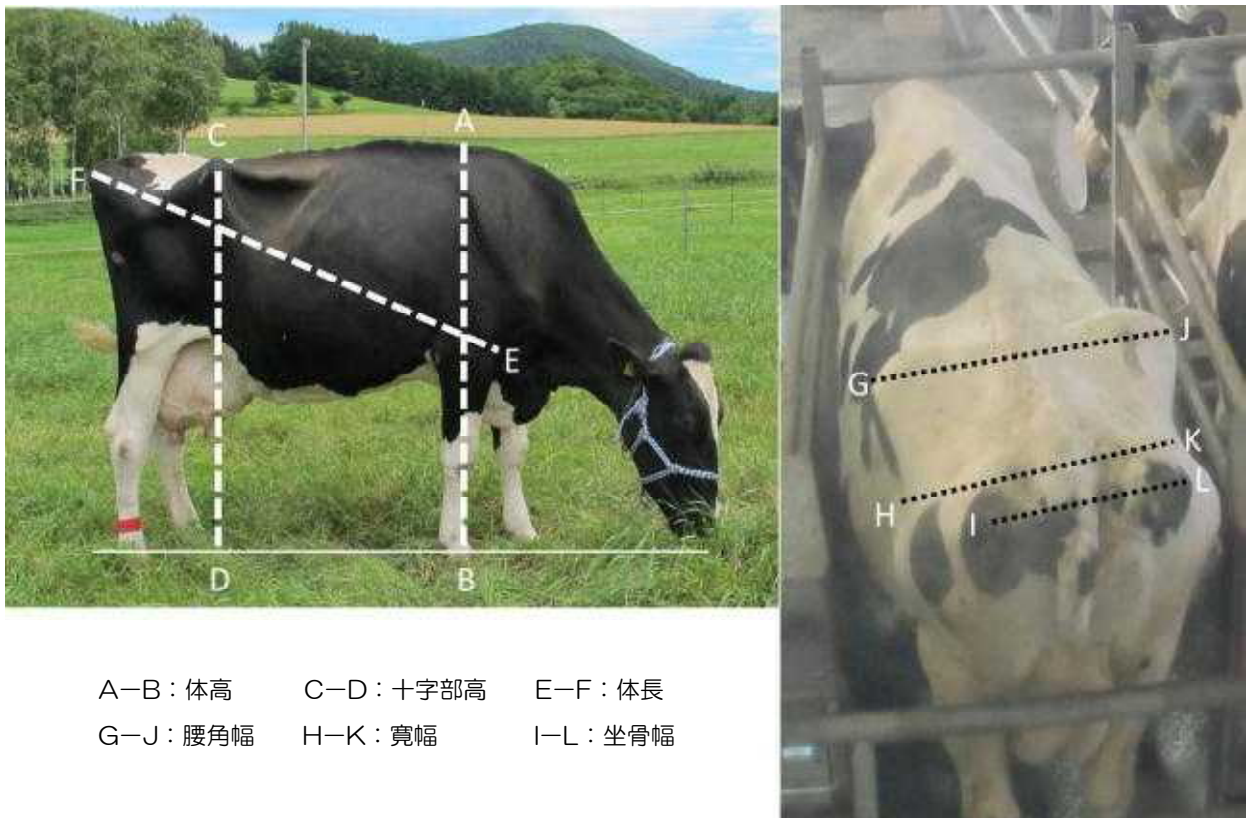


図6 体型測定部位